

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

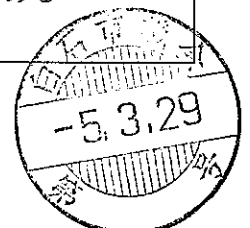
令和5年 3月29日

白石市議会議長 小川 正人 殿

議員氏名 松野 久郎

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	令和5年 3月 22日 (水) ~ 3月23日 (木)
調査・研修先	西村明宏環境大臣表敬訪問及び衆議院第二議員会館等
調査事項 (研修事項)	■文部科学省 ①不登校特例校について 他 ■国土交通省 ①白石市内国道四号線拡幅について 他
対応者・講師等	<講師の方々> ・文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 課長補佐 時枝 正和 氏 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導室 課長補佐 大野 照子 氏 生徒指導第一係 岡本 真穂 氏 生徒指導調査分析係 松田 明子 氏 ・国土交通省 道路局 企画課 道路経済調査室 課長補佐 野村 文彦 氏 調査第三係 北川 健 氏
概 要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 成果・効果 ④ 今後の課題 ⑤ 主な質疑 ⑥ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	【概 要】 [テーマ：白石市立南中学校・南小学校（白石きぼう学園）の開校に当たってについて] ① <背景・目的> ・不登校特例校は、現在全国で21校開校していて、全国の300市町村に設置を計画している ・不登校特例校の現状に関する基礎的情報を把握する ②<内容・特色> ・教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成することができる特例措置によって文部科学省から指定された学校である



③<成果・効果>

- ・市内で不登校になっている児童生徒を受け入れることで、基礎学力の定着と社会性の教育を行い、上の学校への進学など子供達の不登校を改善する
- ・家庭の応援体制が整うことで、児童生徒にも良い影響を与える
- ・様々な理由で不登校となり、行き場の少ない児童生徒の学習の場や居場所として有効であり、集団での活動が苦手な児童生徒が学校へ通えるようになる

④<今後の課題>

- ・発達障害や情報障害を持っている子供も多く、一人ひとりの特性に合わせた指導が必要だが教員の数が足りるか
- ・不登校で基礎知識が大きく欠落している子供が多いことが考えられることから、学習に通う以前に学校に来ることが出来ないため、まずは登校出来ることを目指す必要があり、本格的な学習活動には取り組めない
- ・地域住民の理解が必要で偏見を持たれない様にするのが重要

⑤<主な質問>

Q：適正な教員や職員の配置ができるのか

A：教職員定数の標準に関する法律により配置するが、不登校特例校への加配もあるので活用していただきたい

Q：どのように指導の先生を選ぶのか

A：教師のこれまでの経験や指導状況を勘案するとともに、校長先生からの情報や人脈等をも活用し人選することが多い

Q：市外や県外からの希望者があると聞いています。本市に住所を移して入学する方もおります。不登校特例校は日本に300校程計画しているとの事ですが、希望する市町村に開校が出来ない場合、開校している市町村に入学できる仕組みが必要と思うがどうか

A：希望する市町村との協定を結ぶとか方法はあると思うので、市町村で検討していただきたい

Q（再質問）：市町村間での協定等を結ぶことは難しいと思うので、国が検討して法律等を定めて、各県が主導で市町村間を越えても入学できる仕組みを考えてほしい

A：検討することは意義があると思うが、法律を変えないと難しいと思う

⑦ <考 察>

- ・何人の児童生徒が入学されるかによって、先生や職員の人数が決まることから、これまでの不登校特例校においては、人手不足等の課題も挙げられている。今後の状況を注視して行きたい。また、地域の方の理解も重要になることから率先して情報を共有し、協力して行きたい。また、不登校の改善が見られた、自己肯定感が高まり意欲的に物事に取り組めるといった教育上の効果に期待したい

概 要

① 背景・目的

② 内容・特色

③ 成果・効果

④ 今後の課題

⑤ 主な質疑

⑥ 考察

(感想、課題、
政策提言等)

【概要】

[テーマ：白石市内の国道四号線拡幅の検討状況について]

① <背景・目的>

- ・国道四号線白石市斎川～大平森合間の第1回計画段階評価を踏まえて、今後の進捗状況及び計画について把握する

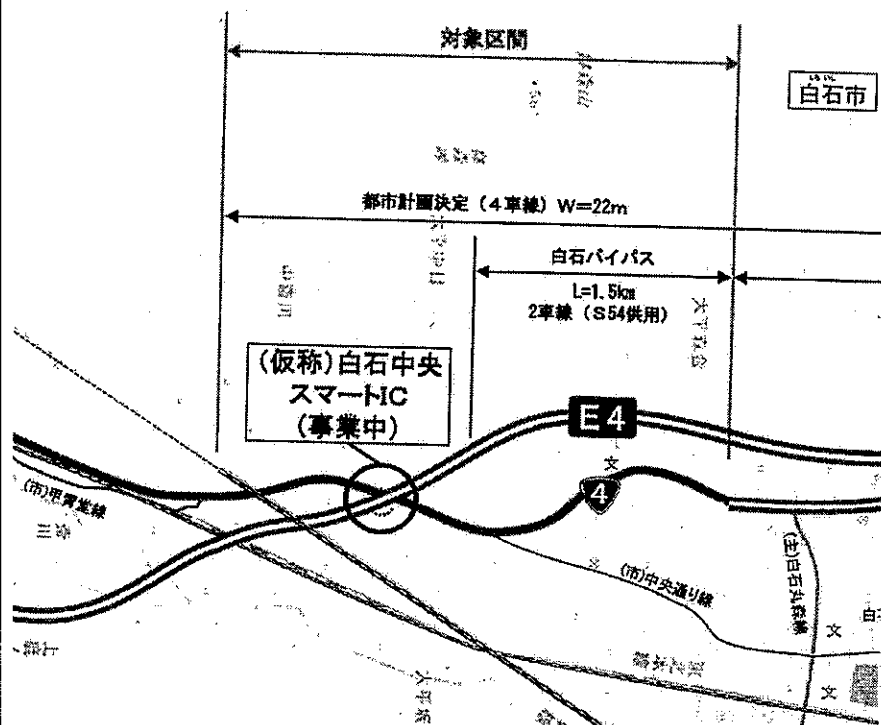
② <内容・特色>

- ・評価対象区間について

- 対象区間の北側 6.4 kmは白石バイパスとして4車線整備済みであり、対象区間は都市計画決定済み

- 対象区間の終点側 1.5 kmは白石バイパスとして暫定2車線整備された区間

- また、対象区間南側では白石市などが(仮称)白石中央スマートインターチェンジを事業中



③ <成果・効果>

- ・脆弱なダブルネットワークの解消
- ・県内平均を上回る事故危険性の防止
- ・不安定な物流ネットワークの解消
- ・迅速な救急搬送の解消

④ <今後の課題>

- ・計画段階評価において、東北地方小委員会の第1回が開催されたが、今後の地方小委員会を経て、対応方針が決定されるためその内容を注視したい。今後の小委員会の評価の内容を下記に示す

■意見聴取（第1回）

- ・意見聴取内容（地域、道路の課題・求められる道路機能）
- ・意見聴取方法（アンケート：地域住民・道路利用者・企業等）
- ・ヒアリング（対象者：関係自治体・企業等）

■東北地方小委員会（第2回）

- ・第1回意見聴取結果の確認
- ・政策目標の決定
- ・評価項目の決定
- ・対応方針（複数案）の決定
- ・意見聴取方法（案）

■意見聴取（第2回）

- ・意見聴取内容（対応方針（複数案）の検討に際し重視する項目）
- ・意見聴取方法（アンケート：地域住民・道路利用者・企業等）
- ・ヒアリング（対象者：関係自治体・企業等）

■東北地方小委員会（第3回）

- ・第2回意見聴取結果の確認
- ・対応方針案（概略ルート、構造等）

◆対応方針（概略ルート、構造）の決定

⑤<主な質疑>

Q：いつ頃決定となるのか

A：地域住民や道路利用者、企業等へのアンケートを実施し、特に地域住民の理解が得られるかで決まる

Q：今回の対象区間から南の越河までの区間には、歩道も無いし、複車線から単線になり、渋滞が一層深刻になると思うことからその区間の複車線化は計画されているのか

A：私たちは、調査をしている部署なので、今後の計画は分からないが、そういったことも検討する必要があると思う

Q：福島県の県境迄は、複車線及び付加車線整備がなされているので宮城県の県境から白石市斎川までの複車線又は付加車線になると、福島市から仙台市までの全線が整備されることとなり、渋滞等も大きく緩和されると思うので是非整備してほしい

A：特に回答はなかったが、話は聞いていただいたので検討していただけると感じた

⑥<考 察>

- ・今回の対象区間は、大平森合から斎川までの3 Kmであり、(仮称)白石スマートインターチェンジの事業化に伴い、事業化への採択は出来るとの手ごたえはあったが、斎川から越河までの2車線区間、4 km区間について、早期に評価対象区間になることを今後要望していく必要があると感じた。対応していただいた国土交通省職員の方々には、交通の実態について、現状をお伝えすることが出来たので、一定の成果が得られたと感じた。

以下余白